

電灯のない時代に夜の町を照らした行灯～現在は私たちの心を温かくする行灯～

2015年から毎年『西新井大師行灯祭り』が開催されておりますが、2021年10月にもコロナ禍ではありましたが、多くの方のご尽力により開催されました。そのお祭りのメインモニュメントとなる巨大行灯の制作を本校美術コースが担当することになりました。本校は東京の東に位置しておりますが、この地域に高等教育機関がなかった大正時代に地域（現在の足立区）の方々に創立していただきました。そのような経緯もあり、生徒たちの地域のイベント等への参加には温かな期待をいただいております。そして、その経験は生徒たちには地域貢献を学ぶ貴重な機会となっております。

制作は有志で、2年生が中心となって指揮をとり、1, 2年生合わせて総勢20名ほどが参加しました。生徒に行灯のデザインを募り、投票で一つ選びました。それから全体をまとめる総監督や現場監督を決め、生徒主体で計画を立て制作を進行させました。作業は屋根と側面4面の図柄のグループを組み、それぞれのチームにリーダーを立てて進めました。

お披露目（点灯セレモニー）の日には皆で見学に行きました。到着後には、作品のモチーフとしていた貴重な絵画：葛飾北斎『弘法大師修法図』を本堂で見学できる（公開中）という嬉しいめぐり合わせもありました。あたりも暗くなりはじめたところでセレモニーが始まり、地元の和太鼓奏者の皆様によりパフォーマンスの後、制作生徒を代表して2年生の生徒が挨拶させていただき、いよいよ点灯です。お集まりの皆様の歓声をいただき、生徒たちは目に涙を浮かべながら感動しておりました。このような社会情勢の中で、このような機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。

潤徳女子高等学校長 木村 美和子